

患者様各位

当院における低侵襲ロボット支援下僧帽弁形成術後患者と低侵襲僧帽弁形成術後患者の離床状況と離床を阻害する要因の検討に関するお知らせ

研究の背景

近年、心臓外科手術後の早期リハビリは術後合併症の予防 1)、ICU 滞在日数 2)や入院日数の短縮 1)3)に影響することが明らかとされている。手術の低侵襲化や周術期管理の進歩を背景に臨床現場では、より早期の術後リハビリによる身体機能の向上、日常生活動作 (Activities of daily living 以下 ADL)の再獲得が求められている 4)。本邦の集中治療領域では ICU 入室患者の 6 ヶ月後の身体機能障害の発症率は 32% 5)と報告されており、早期離床・早期リハビリテーションの重要性が示唆されている。早期リハビリテーションに伴い、不動による筋の変性や筋量の減少が、疾患の新規発症、手術または急性増悪から 48 時間以内に始まり 6)、2~3 週間のうちに最大となる 7)と呈されており、早期離床やリハビリテーションは、酸素飽和度の低下と循環変動が数%に認められるのみで有害事象は散見されず、安全性が示唆されている 8)。当院では 2020 年より MICS MVP が施行され、2023 年 5 月より da Vinci を用いた Robot MVP が施行されている。より低侵襲の Robot MVP は MICS MVP と比較し、術後の安全性や有効性が示唆されている 9) 10) 11)。また、諸外国の報告では Robot MVP は、出血・痛みが少なく周術期の回復が早く、早期離床が可能であり、安全性も確立されてきている 12)。しかし、Robot MVP 術後の離床状況や離床に関する実態や経過を報告した研究はまだ少ない現状がある。

研究の目的

本研究の目的は Robo MVP と MICS MVP 施行後患者の術後 ICU 入室後から 48 時間以内の離床状況と離床を阻害に関する要因を明らかにし、患者および家族指導の際の情報として役立てることである。

利用する者（被検者）の範囲と研究期間

対象者：研究対象施設にて 2021 年 1 月 1 日から 2026 年 4 月 30 日に Robotic MVP と MICS MVP 施行し、リハビリテーション介入された患者

期 間：2021 年 1 月 1 日～2026 年 4 月 30 日

研究に際し行うこと

研究のための特別な検査・投薬・治療等はありません。通常の診察 および治療を継続し、その際の血圧や検査データを収集し解析することで、最適な治療の方向性を見出します。

研究に伴う患者様の負担・不利益

通常の診療を行うだけなので、研究のための患者様の金銭的負担は一切ありません。また研究のための検査や投薬は一切行いません。研究を行うことで生ずる副作用等の増加はありません。

患者様の人権擁護

患者様およびそのデータは、個人が判別出来ないよう処理します。またこの研究のために収集したデータは、この研究以外の目的には使用されることはありません。

御不明な点は、主治医・看護師または下記までお尋ねください。
皆様の御協力に感謝致します。

連絡先

社会医療法人友愛会 友愛医療センター
リハビリテーション科 祖慶 竜一郎
電話：(代表)098-850-3811 内線：8088